

# 花粉症の皮膚症状と その治療

## KEY WORDS

- スギ花粉皮膚炎
- アトピー性皮膚炎
- 浮腫性紅斑
- スギスクラッチパッチテスト
- ステロイド外用

Pollen dermatitis and its  
treatment.

Hidehisa Saeki (教授)

## はじめに

花粉症は症候群であり、花粉抗原により全身のアレルギー反応が出現する<sup>1)</sup>。症状の主体はアレルギー性鼻炎・結膜炎であるが、気道、皮膚、全身症状などが出現する。大久保らは2006年花粉症シーズンにおける鼻眼以外の症状を街頭アンケートによって調査した<sup>1)</sup>。全体の200症例では、「口が乾く」、「皮膚がかゆい」が多く、男女差でみると女性では「皮膚がかゆい」が男性より多かった。また、花粉症の症状が重い群ではより女性に皮膚の痒みの症状が有意に多く認められた。以上より、花粉症では鼻眼以外に痒痒などの皮膚症状も、特に女性に多くみられることが明らかになった。

本稿ではスギ花粉皮膚炎を中心に、その概念、皮疹の特徴、臨床病型、検査、鑑別疾患、病態、治療について概説する。また、その他の花粉皮膚炎として、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギに

日本医科大学皮膚科 佐伯 秀久

よる花粉皮膚炎にも触れる。

## I. スギ花粉皮膚炎

花粉皮膚炎のなかでは、スギ花粉皮膚炎が最も頻度が高く、日常診療でも遭遇する機会が多い。

### 1. 概念

スギの花粉は2～4月にかけて日本の広い範囲で飛散する。スギ花粉症は主に鼻症状と眼症状がみられ、1963年に堀口らによって報告されて以来、罹患率が急激に増加している<sup>2)</sup>。戦後もなく復興事業としてスギの植林が全国で始まり1970年頃まで続き、多量の花粉を飛散させるようになったのがその原因とされる。スギ花粉症の有病率が都市に多い理由として、スギ花粉が風媒花で100km以上も飛散し、土の少ない都市部に着地できずに再び飛散するためとされている<sup>3)</sup>。

スギ花粉症患者には鼻眼症状以外に